

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

喫茶店で人を待っていた時のことだった。隣の席に座ったカップルの、男の子のほうが、こんなことを言い始めた。

「おい、おまえ、情けは人のためにならずって、どういう意味か知ってる？」

「えー、へたに同情したりすると、本人のためにならないってことじゃないの。」

「だろ？ そう思ってたんだよ、オレも。でも違うんだって。」

「ふーん、どういう意味なの？」

「えーっと、だから情けは人のためにならず、だろ。だから情けは人のためにならないってことだから……あれ？」

思わず彼の応援をしたくなるのを、ぐっとこらえる。デートの時にこういう話題を持ち出す若い男の子（二十歳前後だった）がいるとは、それ^①だけでもうれしいではないか。私の個人的な好みではあるけれど、言葉^②の話を楽しくできる人というのは、とてもすてきた。

映画の話でも、スポーツの話でも、幼い頃の話でも、将来の話でも、つまり全ての会話は（あたりまえのことだけれど）言葉でなされる。内容が大切なのはもちろんだが、その言葉が貧しいと、魅力も半減してしまうような気がする。そしてふだんから、言葉そのものについて話ができるというのは楽しいことだ。

私のボーイフレンドの中に、いっしょにいる時、よく辞書を引く男の子がいる。新しい言葉を耳にしたり、私の遣う言葉に興味を覚えたり、ある言葉の解釈が二人の間で違ったり…：そんな時彼は、必ず大きな辞書をよっこらしよと持ち出す。そしてその場で確かめる（これが、けっこう盛り上がるのです）。近くに辞書がない時には、それは次に会う時までの宿題となる。

以前、いっしょに展覧会を見に行った時、あまりのすばらしさに私が「あー、眼福^③、眼福。」とつぶやいた。

「えっ、何？ ガンプクって。」と振り返る彼。

「だから、まさにこういう状態よ。眼が至福^④の時を味わってるって感じかしら。」

その言葉を知らなかった彼は、興味津々。

「ふつうは、眼の保養とかって言うんじゃない？」

「うーん、そういう言い方もあるけど、私にとって眼福のほうが、ぴったりくるのよね。

なんかマンブクと響きが似ているからかしら。それは私の勝手なイメージなんだけど、とに

かく美しいものを見て、ごちそうさまっていう気分になると、思わず、眼福って言いたくなるのよね。」

「ふーん、そういうもんなんだ。」

そんな会話があつて後、だいぶたつてからのこと。彼といっしょに見た映画の中で、ある女性が「眼の法楽でございます。」と言った。思わず顔を見合わせて、二人でにんまり。こんな古風な表現もあるのか、と印象深かった。そして、そういう表現に出会った瞬間を共有できるのは、なんと楽しいことだろうか。私の場合、そういう男の子のポイントが高くなる。逆に、大好きな人がヘンテコな言葉遣いをするのを聞いて、がっかりしてしまうこともある。以前憧れていた人が、何人かのグループで、私の部屋に遊びにきたことがあった。

「いやー、意外ときれいにしてるんだね。あいた口が塞がらないよ。」

たぶん、その人は、褒めてくれたのだ。私がとても部屋をきれいにしているということ。を。「びつくりしたよ。」というぐらゐの軽い気持ちで使ったのだろう。

しかし「あいた口が塞がらぬ。」とは、あきれかえる様子をいう。部屋がめちゃくちゃ散らかっていて、驚きあきれた場合なら、登場してもおかしくない言葉なのだけど……。私の中で、すーっと何かが引いていくのを感じた。

そんな細かいことで、いちいちうるさい女だと思われるかもしれないが、これは性分だからしかたがない。靴下を二日続けてはいているのが許せなかったり、時間にルーズなことに耐えられなかったり、と、気になる点というのは、人によってさまざまだろう。私の場合は、言葉が大きなウエイトを占める。

別に味方を増やそうというのではないが、私の友人で、やはり言葉を遣う仕事をしている女の子がいる。彼女が見合いをしたと聞いて、「えー、どんな感じだった？ 相手の人とうまくいきそう？」と根掘り葉掘りきく私。が、彼女の表情は今ひとつ冴えない。

「とても、いい人で、私のことを気に入ってくれてみたいんだけど。」

「じゃあ、いいじゃない。何か気になるところでもあるの？」

「うーん、性格はいいし、勤めもしっかりしているし、趣味も合うんだけど。」

「だけど、なんなの？」

「あのね、彼が言ったのよ。『君みたいに外面いっけいのいい人に会ったのは初めてだ。』って。」
たぶん、その人は「君みたいに愛想がよくて、人見知りしなくて、明るいお嬢さんに会ったのは初めてだ。」と言いたかったのだろう。が、外面がいい、というのは、何かうわべを取り繕うのがうまいような、あまりいいニュアンスではない。そこに彼女は、ひっかかっていた。

問1 傍線部①「それだけでもうれしい」の「それ」とは、どういうことか。本文中の言葉を用いて答えよ。

問2 傍線部②「言葉の話を楽しくできる人というのは、とてもすてきだ」と筆者が考えたのはなぜか。本文中の言葉を用いて、理由を二点にまとめよ。

問3 傍線部③「眼福」について、(ア)筆者が用いている意味を、本文中から一六字で抜き出せ。また、(イ)なぜ「眼福」を筆者は好んで用いているのか、本文中の言葉を用いて答えよ。

問4 傍線部④「なんと楽しいことだろうか」の「楽しい」とは、どういうことを指すか。

問5 傍線部⑤「外面のいい人」について、(ア)彼が使ったと思われる解釈と、(イ)彼女が引っかけた解釈にあたる部分を、それぞれ本文中から抜き出せ。

問6 傍線部(ア)く(エ)の漢字の読みを平仮名で答えよ。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

これは、ただの物見遊山の旅ではあるまい。宿泊カードの職業欄に、主婦、とか、今春中学卒業、などと書き入れるところを見ると、あまり旅慣れている人とも思えないが、どうしたのだろう。

「まさか、厄介なお客じゃないでしょうね。」

と女中が声をひそめて言った。

「厄介な、というと？」

「たとえば、親子心中してきたなんて……。」

「あほらしい。」

「けれど、あの二人、なんだか陰気で、湿っぽいじゃありませんか。めったに笑顔を見せないし、口数も妙にすくないし……。」

「それは田舎の人たちで、こんなところに泊まるのに慣れてないから。だいいち、心中なんかするつもりなら、なんでわざわざこんなところまで遠出してくるのよ。」

「ここなら、近くに東尋坊もあるし、越前岬も……。」

「景色のいい死に場所なら、東北にだっていくらかもあるわ。それに、心中する人たちが二晩も道草食う？」

「案外、道草じゃないかも、奥さん。まず、明日は一日、死に場所を探して、明後日はいいよ……。」

「よしてよ、薄気味悪い。」

もちろん、冗談のつもりだったが、翌朝、親子が、食事を済ませると間もなく外出の支度をして降りてきたときは、ぎくりとした。母親は手ぶらで、息子のほうがしぼんだポストン

バッグを一つだけ手に提げている。

「お出かけですか。」

「はい……。」

この親子は、なにを話すときでも、きまってはにかむような笑いを浮かべる。客のことでよけいな穿鑿はしないのがならわしなのだ、つい、さりげなく、

「今日は朝から穏やかな日和で……どちらまで？」

と尋ねないではいられなかった。

「え……あちこち、いろいろと……。」

母親はそう答えただけであった。あやうく、東尋坊、と口に出かかったが、

「もし、郊外の方へお出かけでしたら、私鉄やバスの時間を調べてさしあげますが。」

と言って顔色②をうかがうと、

「いえ、けっこうで……交通の便は発つ前にだいたい聞いてきましたすけに。日暮れまでには戻ります。」

母親は、べつだん動じたふうもなくそう言うのと、んだら、いつてまいります、と丁寧に頭を下げた。

親子は、約束どおり日暮れ前に帰ってきたが、それを玄関に出迎えて、思わず、あ、と驚きの声をもらしてしまった。母親は出かけたときのままだったが、息子のほうは、髪を短く伸ばしていた頭がすっかり丸められて、雲水のように青々としていたからである。

あまりの思いがけなさに、ただ目をみはっていると、

「まんず、こういうことになりゃんして……やっぱし風がしみると見えて、くしやみを、はや三度もしました。」

母親は、仕方なさそうに笑って息子をかえりみた。息子のほうはにこりともせずうつむいて、これまた仕方がないというふうに青い頭をゆるく左右に振っている。どうやら、どちらも納得ずくの剃髪らしく、

「なんとまあ、涼しげな頭におなりで。」

と、ようやく声を上げてから、ふと、宿泊カードに光林寺内とあったのを思い出した。

「それじゃ、こちらがお坊さんに……？」

「へえ、雲水になりますんで。明日から、ここの大本山に入門するんでやんす。」

母親は目をしばたたきながらそう言った。

それで、この親子にまつわる謎がいちどに解けた。大本山、というのは、ここからバスで半時間ほどの山中にある曹洞宗の名高い古刹で、毎年春先になると、そこへ入門を志す若い

雲水たちが墨染めの衣姿で集まってくる。この少年もそのひとり、北のはずれから母親に付き添われてはるばる修行にきたのである。

それにしても、頭を丸めた少年は、前にも増してなにか痛々しいほど可憐に見えた。さつき青々とした頭に気づいたとき、まるで雲水のような、とは思ったものの、本物の雲水になるための剃髪だとは思っても及ばなかったのは、そのせいだが、母親によると、得度さえまかせていれば中学卒で入門が許されるという。

けれども、この大本山での修行は峻烈を極めると聞いている。果たしてこの幼い少年に耐えられるだろうか、他人事ながらはらはらして、

「でも……お母さんとしてはなにかと心配でしょうねえ。」

と言うと、

「なに、こう見えても芯の強い子ですから、なんとかこらえてくれましょう。父親も見守ってくれてます。」

母親は珍しく力んだ口調で、息子にも、自分にもいい聞かせるようにそう言った。

——息子が湯を使っている間、帳場で母親に茶を出すと、問わず語りにこんなことを話してくれた。自分は寺の梵妻だが、おとしの暮れ近くに、夫の住職が交通事故で亡くなった。夫は、四、五年前から、遠い檀家の法事に出かけるときは自転車を使っていたが、町のセールスマンの口車（口車）に乗せられてスクーターに乗り換えたのがまずかった。凍てついた峠道で、スリップしたところを大型トラックにはねられてしまった。

跡継ぎの息子はすでに得度をすませていたが、まだ中学二年生である。仕方なく、町にあるおなじ宗派の寺に応援を仰いでなんとか急場をしのいできたが、出費もかさむし、いつまでも住職のいない寺では困るという檀家の声も高まって、一刻も早く息子を住職に仕立てないわけにはいかなかった。住職になるには、大本山で三年以上、ほかに本科一年間の修行を積み重ねなければならない。ゆくゆくは高校からしかるべき大学へ進学させるつもりだったが、もはやそんな悠長なことは言っていられない。十五で修行に出すのはかわいそうだが、仕方がなかった。

問1 傍線部①「口数も妙にすくない」の理由の説明として適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

ア 慣れない土地では特に、他人に家庭の事情を知られたくないと警戒していたから。

イ 新しい境遇への不安や緊張、四年以上の別れへの感慨が双方の心を占めていたから。
ウ 少年には、母親が自分の人生を一方的に決めたことに不満があったから。

エ 慣れない長旅に二人とも疲れ果て、口もききたくない心境だったから。

問2 傍線部②「顔をうかがう」とあるが、この時の宿の主人の気持ちの説明として適当

なものを、次の中から一つ選びなさい。

- ア 事情によって何か手助けできることはないかと、様子を探ろうと思っている。
イ 様子が分からないので、もう少し話をして、今後どう対応しようかと思っている。
ウ この親子の旅行の本当の目的を、相手の表情から知ろうと思っている。
エ 本当に自殺しようとしているようなので、思いとどまらせようと思っている。

問3 傍線部③「母親は珍しく力んだ口調で、息子にも、自分にも言い聞かせるようにそう言った。」とあるが、この時の母親の気持ちの説明として適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

- ア 息子を厳しい修行に送り出すつらさや不安を自ら抑えようとしている。
イ 息子以上に自分のほうがつらいことを息子に分かってほしいと思っている。
ウ 息子が修行を嫌っているかもしれないが、自分の期待を理解してほしい。
エ まだ年若い息子を無理に修行に出すことに強い罪悪感を感じている。

問4 次の語句の意味として適当なものをそれぞれ選びなさい。

- (1) 口車に乗せる
ア だます イ おだてる ウ 追い出す

【三】 次の各問に答えなさい。

問1 次の空欄に当てはまる同じ読みを持つ漢字を答えよ。

- (1) のばす
(ア) 試験の日程を () ばす (イ) 背筋を () ばす
(2) あつい
(ア) () い夏の日 (イ) () い本を読破する (ウ) () いコーヒーを飲む
(3) うつ
(ア) () くぎを () っ (イ) 賊を () っ (ウ) 鉄砲を () っ

問2 次の四字熟語の傍線のカタカナを漢字に直しなさい。

- | | | | | | |
|---|----------------|---|----------------|---|----------------|
| 1 | 取捨 <u>セントク</u> | 2 | 針小 <u>ボウダイ</u> | 3 | 深謀 <u>エンリョ</u> |
| 4 | 千変 <u>バンカ</u> | 5 | タイ <u>ギ</u> 名分 | 6 | ビ <u>ジ</u> 麗句 |

【四】 次の各文で、間違っって使われている漢字が一字ある。上に誤字を、下に正しい漢字を記しなさい。

- 1 詐偽事件に関わった男が警察に逮捕された。
- 2 この住宅改修には介護保険が適用される。
- 3 幼児期の教育が人格の形成に映響を与える。
- 4 不況の下で無力感が浸透している。
- 5 パソコンや携帯電話が急激に普求している。